# 第3回　高砂市未来技術地域実装協議会　議事録

| | |
|---|---|
| 開催日時 | 令和5年7月21日(金)14:00～16:00 |
| 開催場所 | 高砂市役所　南庁舎5階大会議室 |
| 会長、副会長 | 畑　正夫　会長、都倉　達殊　副会長 |
| 出席委員 | 14名(別紙名簿のとおり) |
| その他 | 傍聴者:17名　(現地:7名、オンライン:10名)<br>オブザーバー:内閣府地方創生推進事務局、デジタル庁国民向けサービスグループスマートシティ班、兵庫県企画部情報政策課、KPMGコンサルティング株式会社、ためま株式会社、株式会社Liquitous |
| 議事 | (1)　たかさご未来資産を貯めようプロジェクトの全体像について<br>(2)　提案型実証事業について<br>(3)　今後のスケジュールについて<br>(4)　その他 |
| 資　料 | 事前配付資料<br>第3回　高砂市未来技術地域実装協議会　次第<br>第3回　高砂市未来技術地域実装協議会　資料<br>参考　ひょうごTECHイノベーションプロジェクトについて<br>当日配布資料<br>第3回　高砂市未来技術地域実装協議会　委員名簿 |

| 議事の経過 |
|---|
| 1　開会<br>＜本日の資料の確認＞<br>＜本日の進行について説明＞<br><br>2　市長挨拶<br>皆さん、本日はお忙しいところ、ご出席を賜り、誠にありがとうございます。<br>本日の協議会には、デジタル庁から本市の現地支援責任者として、矢崎様から代わられた根本様にお越しいただいており、総務省や環境省の方にはオンラインでのご出席をいただいています。<br>また、会場にも傍聴の方がいらっしゃいますが、各省庁や内閣府の方々もWebで傍聴いただいています。さらに今回は、Webでの対応の効果にもなると思いますが、未来技術社会実装事業に採択されている他自治体の方も傍聴されています。本協議会の議論が皆さんそれぞれの地域での課題解決の一助となれば幸いです。<br>さて、令和4年度に採択されました未来技術社会実装事業も2年目に入りました。昨年11月25日には第1回の協議会、本年2月9日には第2回の協議会を開催させていただき、皆さんから貴重なご意見を賜りました。<br>本日は、4月に募集しました実証事業について、内容が固まってきましたので、ご説明をさせていただくとともに、皆さんから効果の検証方法等に関する意見を賜りたいと考えています。 |

本プロジェクトを成功させるには、地道に一歩ずつ取り組むことが必要と改めて実感しているところです。

本プロジェクトが、より良い制度、取組になるよう、本日も皆さんから忌憚のないご意見をいただきますようにお願いし、ご挨拶といたします。本日もどうぞよろしくお願いいたします。

3　現地支援責任者挨拶（デジタル庁：根本委員）

未来技術社会実装事業につきましては、この未来技術地域実装協議会に、国の各機関も参加させていただき、一緒に検討し、支援を進めていくという仕組みになっています。高砂市の取組に関しては、現地支援責任者としてデジタル庁で拝命しており、私が本日参加させていただいています。

私も公務員人生の半分は地方で、中小様々な組織に所属していましたが、各地方都市は厳しい課題を様々抱えており、それを解決するために皆さんも様々なことに取り組まれているのを肌で感じてります。高砂市に関して、私は土地勘がなく、本日勉強させていただこうと思いますが、一緒に考えて高砂市さんの取組がうまくいくように、国側もしっかり支援していきたいと思いますので、よろしくお願いします。

4　会長挨拶

毎日とても暑いですね。この暑さをなんとかしないといけないところにも、まちのデザインは重要であると思います。

脱炭素という言葉は、かなり耳慣れしてきましたが、脱炭素を実際にどのように実行するかは、やはり難しいです。特に、ローカルな地域ではなかなか難しいところがあるかと思います。本日はそれらも含め、私たちは私たちなりの脱炭素の取組、デジタルの取組を進めようとしているところで、何かつながるところがあればよいなと思い、参りました。

言ってはいけないことは基本的にないのが大前提であるため、積極的にご発言いただき、議事の進行、そして内容が有意義になるようにご協力いただければと思います。

5　議事

（1）たかさご未来資産を貯めようプロジェクトの全体像について
（2）提案型実証事業について
（3）今後のスケジュールについて
（4）その他

議事の経過

〇会長

本日の議事は三つです。次第の（1）から（3）について、まず、事務局からご説明をいただき、それから議論を始めたいと思います。事務局よろしくお願いします。

〇事務局

資料に基づいて説明

・全体イメージと第1回、第2回協議会等の内容の共有
・実証事業の概要説明
・効果検証に向けたロジックモデルについて（KPMGコンサルティング株式会社）
・今後の展開について

・各実証事業に関する動画再生

〇会長

動画での各事業のご説明は私がお願いしましたが、事業者さんの了解があれば、ホームページ上で発信して、市民の方にも見てもらうことが大切かと思っていますので、交渉とご協力をお願いしたいと思います。

説明は以上ですが、過去を振り返りながら、今取り組んでいる仕事と、将来に向けてどのようなことを評価していくかの流れをご説明いただきましたが、ご意見・ご質問いずれも結構です。いかがでしょうか。

事業者の方にもせっかくお越しいただいているため、先ほどプレゼンテーションの動画もありましたが、改めて各1分程度で、各事業が今回のプロジェクトにどのような意義があるというような内容で、一言いただけると私たちの理解も深まると思いますので、よろしくお願いします。

〇ためま株式会社

私たちは包摂的なコミュニティプラットフォーム、簡単には電子掲示板のようなものですが、それを地域に実装する取組を9年がかりで行ってきました。ようやく社会に認知が広まりつつあると思っています。

全国でも起こっていることですが、高砂市でいうと臨海部の企業のいわゆる転勤族の社員の方々が毎年転出入を繰り返されています。その方々は地域とのつながりを持たないまま転出されていることがほとんどです。

例えば、自治会や消防団には転入していきなり加入につながるかというとそうではなく、やはりお世話になったから手伝いますというような関係性が重要だが、その関係性がつくられないことが問題ではないかと思っています。地域とつながると地域愛が生まれ、清掃活動への参加のように、この地域の持続可能性を考え始める流れが、必ず起こると思う。

今後の未来に向けて変化を生む取組が、このたかさご未来資産を貯めようプロジェクトで実現できればと思います。

〇会長

高砂市の総合計画で特徴的かと思ったところが、住民と記載している文言の後ろに括弧で市民、団体、関係人口等と記載があります。たくさんの企業が立地している都市だということも特徴ですが、それだけでなく、関係人口というところに、通勤者をかなり意識されており、通勤されている方にもかかわりを持ってもらいたいという意識が強く出ていると感じます。ためまさんの取組の中では、それを反映したかたちで住民の幅を広げる、仲間を増やすことが、とても特徴的であると私は思っています。ありがとうございます。

〇株式会社Liquitous

畑先生からも総合計画に関する言及もありましたので、少しそこからなぞらせていただきますと、現行の第5次総合計画において、基本構想・基本目標の中で大きく四つの方向性が示されております。共生、共創、共感、共治・共有ですね。この四つが高砂市のまちづくりの基本的な目標だと示されています。

ここで、やはり住民の皆さんと行政とのコミュニケーションの重要性については改めて議論するまでもないと思います。

高砂市が行政としてどのような仕事をしているのか、まずはここがしっかりと市民の皆さんに伝わらなければ、市民の皆さんの意識変容も当然起こりません。今般も地域脱炭素、あるいはGX、D

Xと国でもおっしゃっていますが、それらをそれぞれの地域の中で実際にかたちにしていく際に、しっかりと住民の皆さんにその理念や目標が伝わって、初めて市民の皆さんにも思いが届き、それにより新しく行動の変容が起こっていくものであると考えています。

今般のたかさご未来資産を貯めようプロジェクトの目的は地域脱炭素ですが、この脱炭素の取組で一番大切なことは、市民の皆さんの意識の変容、そしてその行動変容をどのように促すかという観点で、そのための実証事業としてためまさんやスタジオスポビーさんの取組があります。その実証事業という言葉だけが踊るのではなく、実際に実証事業の改善のプロセスにも市民の皆さんが入り、市民の皆さんに高砂市の考えがしっかり伝わり、ではどのようにすれば市民の皆さんと高砂市が一緒に脱炭素を進めていけるか、これらを考えるためのプラットフォームとして弊社のLiqlidを使っていただけるとよいのかなと考えています。

〇会長

デジタルだけではないというお話もありましたが、ようやく普通に話ができるベースができてきたかと思います。

実証事業のタカサゴテクリンチャレンジだけでなく、今回のプロジェクト全体についてのご意見、第1回、第2回の協議会を踏まえながらのご意見でも結構です。そのあたりでご意見をいただければと思いますが、いかがでしょうか。

〇委員

11月の第1回目も参加させていただき、半年余りで、事務局の方、それから会長、副会長をはじめ、かなり関係者で議論して、ここまでたどり着いたのかなというのが、まず率直な感想です。

私はスマートシティ、DX全般を兵庫県の中で取り組んでおり、全国の事例、県内の事例をかなり研究していますが、その中でも大切だと言われていることが三つあります。

一点目が、住民の参画とウェルビーイングをどのように向上させていくのかということ。

二点目が、どのように持続的な取組につなげていけるのかということ。補助金をもらっている間は進めるが、その後長続きしない、運営に困るという事例が多い。

三点目が、データ連携をどのようにするのかということ。

その三つが大変重要であると言われていますが、そのような観点から、かなり様々なことを考え、スモールスタートで、まずは住民が参加しやすいようにハードルを下げ、イベント等に参画してもらうという仕掛けづくりから着手しているとの印象を持ちました。

また、持続的という観点からも、三つのサービスはおそらくクラウド型のサービスを使っていると思いますが、初期投資を大きくやってしまうと、後々大変になるケースもあるため、そのような意味でも、スモールスタート始められているところが、よく考えられているのかなと思いました。

三点目のデータ連携については、先ほどKPMGさんからご説明いただいたところで、各三者のサービスのデータが連携していくことが、考えられているのかなと思いましたので、何とか県としても応援したいと思いました。

そして、意見になりますが、冒頭に畑会長もおっしゃっていましたが、脱炭素は国レベルで考える話と、市区町村レベルで考える話は、おそらく、全然考える目線が違うというお話が、全くその通りだと思いました。今回はどちらかといえば、行動変容してもらい、自分のこの日々の変化がどのように脱炭素に影響していくのかというところを実感してもらうことが重要だと理解しました。そこで、KPIとして、アウトプットでどれほど脱炭素につながったかをこれから計っていくと思いますが、その先に、ではどのようにすれば高砂市の8万人を超える人々の行動変容に繋がり、マクロの部分に

どのように影響していくのか、例えば資料で生活習慣病の人が多いところ、どのように変化していくのかなど、アウトプットからアウトカムにつながる中長期的な視点も持ちつつ、足元とその先を考えていけるとよいのかなと思いました。

また、細かい点で言うと、住民の方はもともと健康な方が参加してさらに健康になる、参画意識が高い人は何もしなくても参加することになりがちですが、そうでない層にどのようにアプローチするのか、おそらくプル型やプッシュ型のお話や、自治会との協力等、様々な工夫が必要かと思います。それらを意識して進めると、より良くなるのかなと思いました。

私からは以上です、ありがとうございます。

〇会長

具体的な事業が始まると、やはり効果など考えるところが増えてきます。よく議論していただいたというお話ですが、私も様々なお話を伺い、勉強させていただいております。

ちなみに予算については多くなかったと思います。事業者の方も来られていますが、一つの事業が500万円でなく50万円ですよね。そのため、スモールスタートだということはよくわかると思います。税金ですから安いというのもいけないかとも思いますが、他の自治体でもできるレベルの金額なのかと思います。貴重なお金を有効に活用することができる取組が始まったところだと思っています。

ありがとうございました。

〇委員

全体をしっかり回していく一つのポイントがスタジオスポビーさんが取り組むところの脱炭素ポイント等だと思いますが、その原資というか、ポイントをゼロから貯めて市民に還元する部分があるはずですが、それがどのような規模なのかを伺いたいです。

また、三つのアプリがあり、SPOBYでは直接的に脱炭素の可視化やイベントの開催で直接利用されそうではありますが、ためまっぷとLiqlidはもともと別の用途のアプリであるところ、こちらの意図している使用方法で使ってもらえるのでしょうか。ためまっぷはためまっぷとして、LiqlidはLiqlidとして使われることになってしまうのではないでしょうか。また、ならないようするためにはどのようにすればよいのでしょうか。

KPIとして、SPOBYがイベントベースであるため、明確に出せると思いますが、その時系列やプランニングに合わせて、ためまっぷやLiqlidの利用状況がどのように連携して上がっていくのかというようなイメージが湧くとよいのかなと思います。

〇会長

事務局から何かお答えはありますか。

おそらくマネジメントの難しさだと思います。

SPOBYの取組は具体的でわかりやすく、脱炭素にもつながり、今は企業から志で協賛品を出していただいて回り始めています。

ここで、一体どこまでポイントについて、取組を現実化するべきかということが課題になるはずです。おそらく、事務局もそのように考えていると思いますが、それを改めて聞いていただいているのは、この脱炭素の取組をどこまでやるのかというところと、ほとんど同じ議論になると思います。

例えば、KPI で定めている値がそれでよいのか等、地球規模の議論の中で、本当に足りているのかどうか、これが大きな問題だと思います。

市民に一定の目標を課すとしても、どのような内容でどれだけ減らすのかを具体的にすることが

大切です。今回の取組の中でも、環境省のライフスタイルに関するご担当の方が入っていただいているのと同じように、このライフスタイルをどのように変えていくのかということを考えていく必要があります。そのような意味でも、ためまっぷの社会的な包摂を進めていく取組をどのようにつないでいくのか、あるいは、意見聴取の仕組みの中でどのようにするのかを整理して、大きなロジックマップを描く必要があります。

そのため、細かい事業ベースのロジックマップはできていますが、全体の大きな流れについて、来年どのようにしましょうか。後の議論になりますが、この部分につながる議論が不可欠になるはずです。

事務局の方、いかがでしょうか。

〇事務局

会長にまとめていただきましたが、まさに今後進める中で、全体のロジックマップ、いわゆるゴールやゴールを目指すための道筋が、まだはっきり見えていない状態になっているかなと思います。

SPOBYについては市民の方にはわかりやすいものですが、ためまっぷとLiqlidについてはわかりにくいかなと思います。私たち事務局は、事業者の方とお話させてもらう中でご説明をいただく機会があり、一定理解できるところがありますが、市民の方にはなかなかそのような部分は伝わりにくいと思います。

ただ、各事業の連携の部分については、KPMGさんから今回の全体像の中でも、検証の資料を作成していただきましたが、我々事務局としても事業者の方々のお力を借りながら、方向性を確認しながら進めていこうとしています。

〇委員

全体のロジックもそうですが、おそらく最初の関門はインストールをしてもらうところで、それが三つあるというところかと思います。

SPOBYはポイントが獲得でき、そのポイントに一定のメリットが感じられるのであれば、インストールしてもらえる可能性はかなりあると思いますが、それと併せて、ためまっぷとLiqlidをインストールしてくださいというのは別の話になってしまう可能性があると思います。

加古川市のDecidimだと、高校生に授業に行って入れてもらうところから始めました。市民の合意形成プラットフォームであるため、それはそれで別の切り口として並行して頑張るという進め方でもよいのかと思う。ためまっぷについても別の頑張り方があるかもしれませんが、インストールしてもらうという最初の段階がとても大変です。その後継続して使ってもらうという頑張りも必要ですが、事業者さんだけでなく、市としても力を入れ続けられるのかが大切かと思います。

プロセスをどのように設計していくかという議論と、成果をどこまで出せるかという議論の二つを上手く整理していく必要があると、お話を聞きながら感じました。

〇会長

これは大きな全体マネジメントとしての課題だと思います。

私もそのような意味で、事務局の方ともよく相談して進めていきたいと思います。

〇KPMGコンサルティング株式会社

私から補足といいますか、ご説明をさせていただきます。先ほど、私から検証の全体像を少しお見せした程度でしたが、ご説明をさせていただきました。

SPOBYはインセンティブがあるからインストールしてもらえるかもしれないが、ためまっぷやLiqlidについては、直接的なインセンティブがないため、インストールまでハードルが高いのではない

か、というご意見だったかと思っています。

私たちも同様の認識をしていますが、少し補足をさせていただきたいのですが、ためまっぷとLiqlidはインストールの必要はありません。Liqlidではユーザー登録が必要だというところはありますが、ブラウザで飛んでさえいただければそのまま使えるシステムです。そのため、若干ハードルは低くなっています。

今回の資料でいうと22ページのところで、先ほど私からは最初に認知してもらい、理解してもらい、行動に移してもらうという流れのご説明をしました。やはり今回目立って一番わかりやすいのがSPOBYであり、歩くことでポイントを稼ぎ、それが何かものに換わるというわかりやすいメッセージになるため、これが入り口になると考えています。そのSPOBYの中でタイムラインというユーザーに対して通知する機能がありますので、そこを契機にリンクを踏んでもらい、ためまっぷやLiqlidに飛んでもらうという導線を考えているところです。

また、SPOBYは自動車移動から、より環境負荷の小さい自転車や徒歩に移行するところで、脱炭素との関係が非常にわかりやすいですが、今回の実証の中で三つの事業はそれぞれ密接に関わっているものと考えています。例えば、たえまっぷはイベント情報をお知らせする掲示板のようなものです。そこで地域の情報、イベントをお知らせすることをもって、そこに対して移動自体を生み出すことができると思っています。そこでSPOBYを使い、自動車ではなく徒歩で移動してもらいポイントを稼いでもらいます。そしてLiqlidの仕組みの中で、SPOBYのイベントの協賛品等へのご意見を出してもらい、すぐに対応するのは難しいとは思いますが、実証の中で反映させていくことで、我がこと意識につなげていきます。そのように、各実証事業がそれぞれ密接に関連し、それぞれが薄くではありますが、脱炭素につながっていくのかなと思っています。

全体像の中でいうと、地域と市民行政とのパートナーシップづくりの基盤となるものを今回の実証を通して、作っていくことになるのかなと考えています。

補足としては以上です。ありがとうございます。

〇会長

力強いご説明ありがとうございます。

ただ、気にしておく必要があるかなと思ったことが一つあり、デジタル機器は、想定しているものと違う使い方をされて、それが爆発的に伸びる場合もあります。

そのため、こちらが薄いと思っている関係が、実はすごく深かったというような、それらを発見してくれる人が、きっと、一番の応援者になるのだろうなという気がしています。

抽象的な話題が多くなっていますので、具体的に何かこうすればよいのではないかというご意見があればお願いします。

〇委員

この協議会で私だけがパソコンを持っておらず、紙の資料なのですが、お話を聞いて理解するだけでも精一杯です。そのため、中身のことは別にしても、今までの流れから腰を折る話にはなってしまいますが、結局スマートフォンが必要となるツールが多いと思います。

市でもスマートフォンを利用した発信を結構行っているかと思います。ホームページ等もありますが、現時点で企業や市民と市のやり取りの度合いといいますか、手ごたえは市としてどのように捉えていらっしゃいますか。

我々はやはり、まだ回覧板を利用していますが、話の中でホームページにも掲載していますよと言われても、誰が見ているのか、と私たちは思ってしまいます。その辺りでギャップはどのように把

握されているのでしょうか。
〇会長
　これは大切な質問ですね。事務局お願いします。
〇事務局
　ご質問いただきました市の情報発信についてですが、現在、市ではホームページやたかさごナビというアプリ、そしてLINE、Facebook、InstagramのようないわゆるSNSで発信しています。
　情報発信ツールとして、ホームページはどちらかといえばプル型になると思いますが、たかさごナビやSNSはプッシュ型の発信を行っているかたちです。それらのユーザー数等を事前に調べてきましたので、ご報告させていただきます。たかさごナビについては、6月末時点でインストール数が23，000、ユーザー登録数が5，000弱です。SNSについては7月中旬の情報で、LINEについては友達登録数が2，000、Facebookのフォロワー数が2，300強、Instagramのフォロワーについては1，700と若干少ない状況となっています。
　情報発信は主にプッシュ型で行っていましたが、今回実証実験を行っていただく部分で例を出すと、ためまっぷについて、事業のご提案をいただいた際にプル型の情報発信ができるとのお話があり、その部分は今まで高砂市にはなかったところです。もちろんホームページもありますが、市のホームページは行政情報のみになってしまい、地域の情報はなかなか載せられないところがありました。しかし、地域の情報を地域の方が発信し、プル型で情報が得られる媒体は、今まで行政になかったと考えており、実証実験の中で様々に使っていただければと思っています。
〇会長
　少し補足をすると、地域といっても高砂市全体というイメージではなく、例えば自分の家から500m圏、町内会圏域くらいの情報が投稿され、それを見ることができます。そのため、次の日曜日に溝掃除をしましょうというような回覧板を回さなくとも、ためまっぷで見ることができるイメージです。それがプル型のイメージだと考えていただければと思います。
　何か自分が伝えたいと思うことが、関心を持つ人に対して伝わり、それで協力が生まれるというようなところまでが、一応は想定されていると考えていただければと思います。一方的な情報発信ではないというところです。
〇委員
　そのあたりのお話はよく分かります。ただ、お聞きしたいのは現実的に高砂市の地域でそれが可能なのか、その手ごたえをどのように感じていらっしゃるかを聞きたいです。
　理屈が正しいからといって、成功するとは限りません。スマートフォンをどの年齢の方が使用しているかという話にもなります。
　方向性としては正しいと思いますが、先ほどお話したように、この協議会でも私はパソコンを持って来ていません。そのため、30代、40代もしくは高校生あたりに、どんどん出張等を行って、説明して、使ってもらう、その中で利用者を増やしていくような方法を行っていただきたいと思います。私は中身がわかりませんが、方向性は良いと思いますので、その辺りをお願いしたく、発言しています。
〇会長
　わかりました。とてもいいご意見ですよね。一部の人だけでなく、みんなで使えるようにしなければダメですよねというお話だと思います。
　脱炭素の取組は、いわゆる持続可能な開発という文脈の中で捉えても、誰もが取り組むことであ

るため、それらにつながる仕組みにしていくことが大切だということをお話いただいたと理解したいと思います。ぜひそれは市で考えていただければと思います。

他、いかがでしょうか。

〇委員

第2回協議会の際に、市内製造業等から出るCO2が全国平均より多いところや、高砂ならではのコミュニティをどのようにデジタルの力を使って維持・充実していくのかというところが、興味深いと思いながら資料を見ていました。

脱炭素について、例えばSPOBYの取組などにつながる流れをどのように説明するのかというところで、資料の14ページにも脱炭素行動の可視化サービスのイメージもあり、企業さんの努力や行政の取組、市民一人ひとりがやることもあるということを表しているのだと思います。そのため、その中で、CO2は皆さん出したくて出しているわけではないでしょうし、減らしたいなとはなんとなく思いながらも、何をすればよいのだろうかと思う人も多いと思うため、移動に伴うCO2を削減することにどのような価値があるか、もう少し言葉で伝わればよいと思います。おそらく移動のCO2を減らしても、全体を見れば大きくはないかもしれませんが、そのような小さな積み重ねが、一つひとつ大切だというメッセージが伝わればよいと思いました。

次は質問ですが、たかさごナビとの連携について、インストール数が約23，000、ユーザー登録数が約5，000と、人口が約8万人というところからみると、結構多いなと思いました。インストール数でいうと単純に人口の4分の1の人が持っている、16分の1の人がユーザー登録しているということだとすれば、非常に力があると思います。三つの事業のうち、二つはブラウザで見ることができるということであれば、リンクを貼り、たかさごナビを入口として、最低限の連携をすれば、力になると思いましたが、連携をする予定がないと、当時はどのような議論になったのかと確認をさせていただければと思います。

〇会長

事務局の方どうぞ。

〇事務局

ご質問いただきました、たかさごナビとの連携についてですが、資料の中で、高砂市議会の全員協議会意見の中で、連携については視野に入れているという表記をしています。たかさごナビがアプリであるため、直接的にすぐデータ連携等を行うためには、加工が必要となり、当然費用も掛かってくるところで、現段階では考えていません。ただ、今回は実証ですが、今後進めていく中で実装に至った際には当然連携についても視野に入れていますという意味で記載しています。

リンク等を貼ってはどうかとのお話がありましたが、先ほどたかさごナビのご説明をさせていただいた通り、プッシュ型の通知であり、冒頭に7月28日からイベントをスタートしますとの説明もありましたが、この実証事業の情報発信でプッシュ型の通知としてたかさごナビを使うことは考えています。

〇会長

ありがとうございます。他、よろしいでしょうか。

〇委員

私はためまさんのためまっぷもすごく興味があり、このようなデジタルツールを使ってコミュニティをつくるということが大変興味深いですし、期待もしています。そこでいくつか質問をさせていただきます。

企業さんと地域を結ぶということをまず進めるとのことですが、おそらく、高砂市の特徴として非常に企業さんが多く、その企業の社員さんを地域にどのように溶け込ませるかという課題かと思います。一方で、地域の方々が、その方同士でつながるということもあるともいます。まずは企業さんと地域をつなげた後に地域の人たちをつなぐというストーリーだと考えてよいのでしょうか。あるいは、地域の方々はある程度コミュニティができているため、その企業さんと地域を結ぶことの方が重要だという意味なのか、そのあたりを教えていただきたいと思います。

〇ためま株式会社

ありがとうございます。企業の方といっても、従業員とその家族で成り立っていますので、当初はその従業員と家族の方にピンポイントに取り組む提案をさせていただいたのですが、事務局の方とお話するうちに両方に取り組もうということになりました。

ただ、検証として注目するのは、企業の従業員の方とそのご家族と考えています。元々弊社は住民であれば従業員等の区別なく、地域の人のつながりをつくることが目的であるため、そこはやぶさかではないといいますか、やっていきたいと考えています。

〇会長

まずはKPIをとるために企業さんから始めようかなという意味ですね。

〇委員

あともう一点質問がありまして、ご説明の中で、9年間このような実績があり、そこでその地域の地域愛を育むことができたとのお話が非常に興味深いところですが、それは単にイベントなどの情報発信のみならず、何かもう一つ別の仕掛けだとかがあり、経験上そのようなことがあったということでよろしいでしょうか。

〇ためま株式会社

そうですね。やはりマーケティングのようなものはすごく重要で、例えば、乳幼児の子育て世代は働いていたのが家にこもるようになるといった、いきなり社会から断絶されるかたちになりますが、その時にどこにも行き場がないということが非常に多いです。

やはり、そのような方向けに、乳幼児健診でチラシを配ると、9割以上の方がご覧になり、このようなものを待っていたと、さらに口コミで広がっていくみたいなことがあります。

ただ、それは乳幼児健診でチラシを配布できる体制などが必要になりますし、きちんと載せるコンテンツを住民の人たちと一緒に作っていく必要があります。

〇委員

そのように9年間で積み上げてきたものは主に子育て世代の取り込みのようなイメージでしょうか。

〇ためま株式会社

それだけではありません。子育て世代に向けたもので高齢世代が活動しているものが山ほどあるのですが、子育て世代がそれらに触れる機会がないということが生じています。また、高齢者の方も、健康体操等、いつ参加したか、次回はいつあるのか等忘れてしまいがちで、毎朝その情報を求める方もいらっしゃいます。それらに対して、実績として高齢者にも使える仕組みだということがわかってきており、ためまっぷは幅広い世代に効果があると考えています。

〇委員

関連してもう一点質問させていただきたいのですが、資料の16ページ左下に小さく記載がありますが、20代前半の父親がためまっぷを機に自治会に加入したというのが非常に興味深いと思っ

ているのですが、30代ではなく、本当に20代ですか。
〇ためま株式会社
　それは、大阪の約300世帯で1，000人ほどの規模のマンションの自治会で、高齢化で担い手に困っており、以前、声をかけても自治会への加入を断られたということがあった自治会でした。しかし、その20代前半の方が、子どもを連れていけるところを探して、ためまっぷを見ると、自治会のイベントが偶然見つかり、参加されたらしいのですが、そこで、このようなことをしてくれる自治会だったら、私も手伝いますと、加入いただいたという事例です。私も信じられませんでしたが、20代前半で間違いありません。
〇会長
　ありがとうございます。よろしいでしょうか。
　ご意見等他にございますか。
〇委員
　弊社も実店舗があり、アプリを作って運用してみようと思いまして、実際に6月から自社のポイントを貯められるアプリを運用しています。元々、単純に打刻できるようなポイントカードを作っており、店舗の方で4年から5年ほど実施させていただいている中で、会員数が5万から6万人ほどいらっしゃいます。それに対して、ダウンロード数はどれくらいいくのかと思い、実施しました。
　結果、初月は大体1，000ぐらいのダウンロード数になりましたが、やはり年齢層によっては、スマートフォンを使って、アプリをダウンロードするというのは、ハードルが高かったなと思います。
　ただ、6月から始めて、今7月になっていますが、7月はこの段階で約2，000のダウンロードと伸びています。何をしたかというと、初回ダウンロードしていただければ、このような特典がありますよ、といったキャンペーンを実施しました。これが非常に効果的で、やはり同じように、今回SPOBYの脱炭素のポイントがあると思いますが、残りの2事業がなかなかダウンロードが少ないのではないかと、他の委員の方からもお話がありましたが、このあたりを連携したキャンペーンをうっていけばいいのかなと思います。実際に使っていただかなければ意味がないと思うため、そのあたりをご検討いただければと思います。
　また、最終的に弊社としましても、これに貢献しているということが非常に重要です。スタジオスポビーさんにもご相談させていただきましたが、このポイントについて、年間2回のイベントというかたちで参加させていただいていますが、企業側、店舗側としては、やはりその脱炭素ポイントを積み上げて、市民の皆さんに数値化して見ていただきたいという思いがあり、そこに企業がこれだけ貢献していますということや、実際に実装した際にこれだけポイントが使われていますということもアピールできるのかなと思っています。
　協議会の中で一度検討いただければというお話だったため、この場で出させていただきましたが、やはりそのようなところで、目に見えるようなやり方が一番いいのかなと思い、今回意見させていただきました。
〇会長
　ありがとうございます。
　普及しなければ話が始まらないですからね。先ほどもお話がありましたが、インストールして活用してもらわなければ話が始まらないわけで、セグメントによっても違うと思いますが、それを誰にどのように普及していき、多くのユーザーを獲得していくかということも一つの戦略として考えていかなければならない部分だと思います。それをどのようにマネジメントしていくのか、それが一番、

きっとこのプロジェクトの中で大きな部分だと思います。

アプリケーションもどのようなアプリケーションが本当に望ましいのか、今年度の実験を通して、足りている部分と足りてない部分を整理する必要があります。皆さんおそらくSPOBYがすごく良いと思っていらっしゃるかもしれませんが、先ほども出た、本当にそれが脱炭素にどれだけ貢献するのか、エモーショナルな部分で貢献するのか、本当に行動として脱炭素にどれだけこうけんしているのか等、このあたりもよく吟味する必要があると思います。

今年度は実証事業を行うため、その中でよく吟味するという作業をしていく必要があります。そこで、本当にそれが役に立っているのかという指標がKPIということだと私は思っています。

少し言いすぎましたが、いかがでしょうか。

〇委員

私も重なるところがありますが、今回スタジオスポビーさんの実証実験の取組に協賛をさせていただいています。東京からスタジオスポビーさんが来られ、ご説明をいただきましたので、私はその時に理解してスタッフに共有することができました。スタジオスポビーさんが来られるとなった際に、事前に市の広報誌にその三事業の掲載があり、そこを見てもらうように話していました。しかし、その広報だけを見てもなかなかそれが伝わらなかったため、後で私から伝えて、ようやく、すごくいい取組だねという話になりました。先ほどお話もありましたが、私たちの世代でもなかなか伝わらないところ、どのように伝えていくか、脱炭素自体がやはり私たちに直接関係あるのかというところもあるため、それをどれほど自分ごとにしていけるのか、というところが大切なのかなと思いました。

そして、認知の部分が資料にもありましたが、最終的にくらしとまちの変化につながるまでが、なかなか長いですが、それをどのように皆さんに共有し、一緒になり、捉えていけるかがすごく重要だと思いました。

まだSDGsが今のように広がっていなかった頃に、高砂市さんが出前講座をされているところ、市役所の方が近くの小学校に来られ、その時に、子どもたちが話を聞いて、家庭で親に伝えるといった流れがありました。そこで、子どもが出前講座で学んだこと、聞いたことはすごく大きい影響があると思いました。そのため、高校や中学校でも、このように市が全体で取り組んでいることを知ってもらえるようなことができればいいとおもいました。

また、資料の19ページについて、実証実験の取組がまもなく8月頃にスタートすると思いますが、サービスが始まった8月から11月までの間にどれだけ知ってもらえるのかを、どのように進めていくのか、たかさごナビと連携しないというお話もありましたので、そのあたりについて聞きたいと思います。

〇会長

この大切な実証事業の期間をどのように心血を注いで頑張るか、その心意気みたいなものを聞かせてほしい、性根は入っていますか、はっきり言うとそういうことですね。

〇事務局

先ほどのご質問・ご意見について、意気込みの部分になりますが、まず一点、広報誌で情報発信をしていましたがなかなか伝わりきらなかった部分いついてご意見いただきました。そして、先ほどいわゆるキャンペーンの部分についてもお話がありましたが、キャンペーンやプロモーションといった部分は行政が非常に苦手としている部分だと思っています。地域の方からも高砂市が情報発信が下手であるとか、情報発信、コミュニケーションが下手ということは言われ続けています。その部分

について下手であることは理解していますので、それらについては、このような場で様々なご意見、ご指摘、ご助言をいただくかたちで改善していきたいと思っています。

その点では、先ほどお話しいただいた、SDGsについて子どもから親へ伝わったという部分はそのような視点が非常に大切だと、私の中で刺さりました。やはりなかなかそのようなところが欠けていると思いますので、きちんと取り組んでいかなければならない、取り組んでいきたいと思っています。

一点だけ訂正させていただくと、たかさごナビと連携しないという部分については、先ほど他の委員さんからもご質問ありましたが、データ連携といった内部での連携は現時点でしませんが、たかさごナビは高砂市の情報発信ツールですので、その点では活用しながら事業を進めていきたいと考えています。市で持っているツールとして、たかさごナビというアプリと各種SNSがありますが、それらについてはフル活用して、Liqlidでの意見聴取やSPOBYのウォーキングイベント等、たった4か月しかありませんので、そちらの情報発信については、実施していきたいと感じています。

ありがとうございます。

〇会長

このように、一応意気込みは聞きましたが、やはり責任者として市長さんの意気込みを聞かなければ、今日は眠れないと思いますので、お願いします。

〇副会長

皆さんから様々な御意見をいただきました、一番初めの協議会の際にも申し上げましたが、私も一番市として重要なのは、市民の方々にいかに理解していただくか、説明の仕方や、それと参画していただくということが大きな課題だと認識しています。

行動変容を促していくことについては、やはり最終的には、一人ひとりの健康管理が今まで以上に良くなった等のお話も初めにありました。そのように市民にとって行動変容したことによってプラスの効果がどのように出てくるのかというところも、今後分析、追跡していかなければなりません。その部分で、楽しみながら行動変容を行っていくことが、いかに浸透していくかが大きなテーマになろうかと思います。そこで、そのポイントについても、事業者の方々にも参画をしていただいて、みんながハッピーにできるようなまちになりたいと思っています。

例えば、私が家で寝転がってテレビを見ています。そこをちょっと歩きに行くかという行動変容、そのようなことがポイントになって、次は欲しかったものが買えるねといった循環のサイクルを市としてどのようにつくれるかというところで、意気込みとして、それはやはり、市として市民の幸せをつくっていくということで目標としてやっていきたいと思います。

〇会長

ありがとうございます。

他に私はこれを言いたいということはございませんか。

〇委員随行者

皆さんから、行動変容のお話、市長からも楽しみながら行動変容していくかというお話が出ましたが、まず、皆さんのご意見を聞いて思ったことが、あまりお話に出てこなかった媒体についてが、多分ポイントになると思います。

その媒体はスマートフォンであると思いますが、では、そのスマートフォンを使う方に対してのデバイド対策について、この実証期間内にどのようにスケジュールリングしていくのでしょうか。兵庫県でも今、デバイド対策を進めていますが、それについて、所管課でもどのように取り組むかを考え

ていただきたいと思います。
　そして、第1回、第2回、この第3回の協議会に参加させていただいていますが、高砂市は自治会の関係がとても強いと思っており、その自治会で教え合いのようなことができればいいなと思いました。
　何が言いたかったかと言いますと、まず、そのデバイド対策を含めてスマートフォンが前提になっているのであれば、それをどのように市民の方々に対して教えていくのか、使っていただくのか、また、教え合いをしていくのかというところも一つのポイントか、というところで考えていました。
〇会長
　委員の方から出たお話をもう少し強めに言っていただいたのかなと思います。デジタルデバイドの問題はやはり大きな問題です。
　きっと、このあたりはマネジメント全体の話だと思います。どこから取り掛かるのか、初めからデジタルデバイドを取り除いて取組を進めることは、おそらく不可能であるため、進めながら生じてくるものをどのように見つけ出すのか、これについてはLiqlidの取組も使えるのかなと思います。デジタルの中で、声が上がってくることをしっかりと捉えていくことが、重要なのかなと思ったりもします。
　とてもいい意見です。ありがとうございました。
　他に、これだけは言っておかないと、今日は帰れないという人はいますか。
〇ためま株式会社
　委員の方々からとても参考になる、ためになるご意見もいただきましたが、利用者数が重要なポイントであるならば、4か月しかないため、必要なことをやらなければなりません。
　利用者を増やすのであれば、弊社でも9年間取り組んでいる中で、どのように進めれば広まるのかが大体わかっています。
　例えば、乳幼児健診のお話もしましたが、小中学校での配布がとても効果的です。そこまで4か月の実証実験で取り組むかは覚悟になってくるのかと思います。また、投稿者側も期間が4か月しかないところで、先日の自治会での説明会の際には、とても議論になりました。要するに、どのように考えているのかという市の覚悟、方向性について気にされていることがわかりました。
　また、デバイド対策についてですが、ためまの取組だけで言いますと、今、地域の情報は紙媒体が圧倒的に多く、その情報がデジタル世代に届いていないという逆のパターンになっています。紙をなくそうということではなく、その点で言うと、デバイドを補正する、軌道修正する取組であると思っています。
〇会長
　ありがとうございます。
　今、お話を伺いながら考えましたが、やはり、資料にも描かれていた、トランスポート層やネットワーク層は、脱炭素に関係なく使えます。そのため、序盤にも、脱炭素の関係の希薄さのようなものがあるのではないかとのご意見もありましたが、逆にそのような利点を活かしてコミュニティのデジタル化を進めていく、それに合わせてデバイド対策を進めていくような選択肢が一つあります。
　では、脱炭素をどうするかというところで、今度は、SPOBYで進めているような取組が、どれだけ、どのように拡大できるか、対象者然り、関連企業然り、そのときに支えてくれる住民の層が厚くなっているかを考えると、住民の方には申し訳ないですが、全ての市民と考えるよりは、ある程度の市民と考えて、できるところから進めていくのも一つです。その中で、丁寧にデバイド対策についい

て加えていくという連続をしていく必要があります。私も良くわからないアプリケーションが最近多く出てきており、使い方がわからず学生に聞いたくらいですので、そのような中で、脱炭素についても進めていくことになるのだろうと思います。

その他ご意見はよろしいでしょうか。

では、クロージングで私の意見も含めてお話をしておきたいと思います。

今のお話とも少し重複しますが、やはり、対象者をどのようにするかが一番大きな問題だと思います。誰と一緒に脱炭素の取組をしていくかですね。

今回の実証事業の中では、企業と地域のコミュニティに着目し、コミュニティの中で希薄な部分については、今後どのようにしていくのかが、次の課題になろうかと思います。これは、今年実証に取り組むうえで、必ずそのような問題意識を持ちながら進めていただければと思います。

デバイド対策については、これは経営企画室が全部やるのかどうかわかりませんが、市の中でも情報系のご担当もあるでしょうし、先ほど県のご担当からも、とても圧のあるお話があり、きっと協力してくれるはずですので、協力して進めていただければよいと思います。ぜひ、お願いしたいと思います。

そのように、この地域に住む人以外の力を使うこともとても重要です。

言いたいことの一つは戦略的な取組みをどのようにつくっていくかです。

脱炭素というものがよくわかるのか、わからないのかというところと、脱炭素に取り組めばどうなるのかです。ポイントを獲得できてとてもハッピーということが、本当に脱炭素の取組と言えるのかというところです。ここをまず軽く、このように取り組むと楽しくて良いことができるという領域で、まずは第一段階と考えていいと思いますが、必ず第二段階、第三段階と取組を進めなければ、途中で尻切れトンボになってしまいそうな気もします。

私たちのトランスフォーメーションということであるため、私たちの生活の仕方を変えようとしているのであれば、最後まで市と一緒に取り組めるように責任を持っていただかないと、ということを、私ですと思うところです。

そのような点で、この実装事業に参加されている皆さんのご意見を反映することは当然ですが、先ほどお話があった、若い人からの提言のようなものを聞く機会が必要なのではないでしょうか。これはぜひ市長に実現していただきたいと思います。そのとき、その使用感や使い勝手等を、関係事業者の方と一緒にチェックしながら、誰もが使えるツールになるように、これが今あるものだからということでなく、より良いものをつくっていくことが、結局最終的にウェルビーイングにつながっていくことだと思います。ここの関係性はあいまいですが、考えていかなければならない課題だと思います。

これができると、市のマスコットであるぼっくりんが喜べるような、何か楽しいものができるかもしれません。

とにかく、始まってしまった以上は、見捨てずに協力してください。私もそうしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

まとまったような、まとまっていないような話ですが、様々なご意見をいただいたのは確かですので、これをどのように実現していくか、事務局で整理していただき、具体的に始まれば、そのようなお話もしていただきたいと思います。

プレスリリースの際は、実は市民の協力がとても大切であるため、市としてもデジタルツールの活用に関して、良いことばかりを宣伝せず、一生懸命協力するのだということを一言添えて発表して

いただけたらどうかと思います。
　私たちも努力します。よろしくお願いします。
　それでは、その他として、事務局から説明があればよろしくお願いします。
〇事務局
　資料に基づき、「ひょうごTECHイノベーションプロジェクト」について説明
　・食品ロスに関する課題を提出し、採択を受けた。
　・提案内容次第では、たかさご未来資産を貯めようプロジェクトと合わせて進めることも考えている。
〇会長
　一つ言い忘れていたことがあり、先ほど脱炭素の目標をどのように設定するかという話を少ししましたが、実は国立環境研究所が、国内のいくつかの都市をピックアップし、その構造について、ライフスタイルに合わせた計算をしています。例えば、住宅や移動、食等に分類して計算・分析していますが、そのようなものが、高砂市にあってもよいのかなと考えます。
　これはおそらく時間がかかる作業だと思いますので、可能であれば、環境省の方にも応援していただきたいですし、人手もかかる作業だと思うので、高砂市でもそれに対する準備をしていただければありがたいと思います。
　これは、最終的な目標を定めることと、その方法を公開することで、他のところにも目標を定める計算の仕方がある、つまりエビデンスがあるということになりますので、そのようなところにも貢献できるのかと思います。これが、長くから指定されて取り組んでいる事業の一つの役割かと思います。本日は、環境省の方には協議会を見ていただいただけですが、それだけでなく、そのような意味のあることも、併せて取り組めればよいと思っています。
　これは事務局の方も含めてご検討いただければいいなと思います。
　先ほどの「ひょうごTECHイノベーションプロジェクト」について何かご意見はありますか。
　なければ、今後の予定について、事務局の方からご報告をいただくことで、議事については全て終了となります。
　ありがとうございました。
〇事務局
　次回の協議会については来年1月ごろを予定しております。よろしくお願いいたします。
　ありがとうございました。